

HCAP 東京大学運営委員会

ハーバードカンファレンス 2014 報告書

2014年3月12日

HCAP 東京大学運営委員会 9期



目次

目次	2
ハーバードカンファレンスとは	3
ハーバードカンファレンス 2015 概要	3
学術企画について	3
文化企画について	5
交流企画について	7
終わりに	7

1. ハーバードカンファレンスとは

ハーバードカンファレンスとは、ハーバード大学にある Harvard College in Asia Program（以下 HCAP）の本部が企画・運営を行う約1週間に渡る交流プログラムである。

参加するのはアジア8カ国のトップ大学の学生で、学術企画・文化企画・交流企画の3種類で構成されたカンファレンスを通して、参加者が互いに交流を深められるように設計されている。

2. ハーバードカンファレンス 2015 概要

主催 HCAP Harvard 本部

開催場所 ハーバード大学

日程 2015年1月18日（日）～2015年1月25日（日）

テーマ Technology and Our Generation: From the Individual to the World

参加者 ハーバード大学学部生 86名、東京大学学部生 8名（日本）、梨花女子大学学部生 8名（韓国）、香港大学学部生 8名（香港）、シンガポール経営大学学部生 8名（シンガポール）、チュラロンコン大学学部生 8名（タイ）、聖ザビエル大学学部生 8名（インド）、アメリカ大学ドバイ校学部生 8名（アラブ首長国連邦）、ボアズィチ大学学部生 8名（トルコ）

3. 学術企画について

学術企画では本年度テーマ“Technology and Our Generation ~From the Individual to the World~”の下、レクチャー、パネルディスカッション、グループディスカッションが行われた。優れたスピーカー選びに垣間見えた企画作りの妙やハーバード生を含む他国の生徒の活発な姿に感銘を受けた。



レクチャー・パネルディスカッション

広範な範囲から様々な分野を専門とするスピーカーが招かれた。具体的には学者、投資家、医療系ベンチャー企業のCEO、中国の電子商取引大手アリババの社員、ボストン市役所の職員などが登壇し、新しいテクノロジーが私達個人や世界に与えた影響の多様な側面に様々な立場から講義が行われた。積極的に質問する参加者が多く、質問の中にはしばしば質問者の国や地域の事情が垣間見られ、非常に興味深かった。



グループディスカッション

まず、日本のエネルギー問題やシンガポールの交通渋滞など、自国の抱える問題に関してプレゼンテーションを各国が行った。その後、各国の生徒とハーバード生がそれぞれのグループに分かれ、新たな技術を用いた解決策を考え議論を行った。そして、最終的に各グループの議論の成果はプレゼンテーションの形で全体に発表された。グループディスカッションにおいては、他国の生徒の英語力の高さやハーバード生のリーダーシップが印象的であった。



4. 文化企画について

タレントショー

タレントショーでは、各国がバラエティ豊かなパフォーマンスを披露した。国の特色を活かした伝統舞踊を披露する国や流行の Pops ダンスを披露する国、会場全員がその場で参加できる体操を紹介する国など多岐に渡り、大いに楽しむことが出来た。私達東京メンバーは、ソーラン節を披露した。

アドリブでのリクエストにもこたえるハーバード生の、勉強にとどまらない多岐にわたる才能を実感することとなった。



アイアンシェフ

アイアンシェフでは、各国が自国を代表する料理を作り、その料理の見た目・味などを基準に総合的に競い、数人のハーバード生が審査員となり、優勝国を決定した。今年は「マンゴー」が必ず使用しなければならない食材に指定され、マンゴーを活かした料理を二皿作ることが求められた。

私たちは、日本人以外にもおいしく食べてもらえるようにアレンジした、天ぷらとわらびもちを作った。惜しくも優勝は逃したが、特にはちみつをかけたわらびもちは"Japanese sweets"として好評を博していた。



ハーバードキャンパス/ボストンツアー

ハーバードのキャンパスとボストンの名所をハーバード生に案内してもらった。一カ国あたり 1,2 人ずつからなる小グループに分かれ、会話しながら見知らぬ土地を歩いてまわることが、カンファレンス全体におけるアイスブレイク代わりとなった。ハーバードの統一感あるキャンパスを歩いた後、ボストンのシティーホールやクインシーマーケットなど日本とは全く違う街並みを見てまわった。



ミュージアム見学

ハーバード構内にあるハーバード大学自然史博物館を見学した。古代から現代に至るまでの生物の化石や標本が所狭しと並び、中でもこの目玉である、グラスフラワーと呼ばれるガラスで出来た実物大の植物の標本は、本物ではと疑ってしまうほどの精巧さで驚かされた。



5. 交流企画について

カラオケ

ハーバードスクエアからバスに乗りカラオケに行った。日本ほどありふれてはいないカラオケで各国の学生が思い思いの歌を歌っていたが、アジアの学生も思いのほかアメリカをはじめとする海外の楽曲に慣れ親しんでいるようだった。パーティの時と同様、ハーバード生の盛り上がりには驚かされ、勉強をするときは勉強に集中し、遊ぶときは遊ぶといった彼らの生活の中の姿勢が伺える一場面であった。

Mr. HCAP

各国数人ずつの男性出場者が、女性審査員の前で与えられたお題で話したり、自らの特技を披露したりすることで Mr. HCAP の栄冠を目指した。東京からは3人がエントリーすることになり、そのうちの1人は機転の利いた冗談や巧みな弁舌を披露して見事2位を獲得した。どの出場者のパフォーマンスからも彼らの多才さが伺え、勉学面で優秀であると同時に人をひきつける魅力を持った人たちでもあることが感じられた。

6. 終わりに



ハーバードカンファレンス 2015 では、HCAP 東京大学運営委員会 9 期から 8 名のメンバーが派遣され、ハーバード大学での濃密な時間を過ごすことができました。

「世界中から学生が集まる場で自分を試したい」「自分がこれまで育ってきた環境についてのイメージを壊したい」などと、派遣にあたって各メンバーが掲げた抱負は様々でしたが、ハーバードでの9日間は、どのメンバーにとっても非常に学び多き時間だったと確信しています。

ハーバードカンファレンスに参加すること、それは、それまで住んでいた心地よい世界から一步踏み出し、全く人生のバックグラウンドを異にする大勢の他者と交流すること、その中で多くの気づきを得ながら自分の生き方を相対化することに他なりませんでした。

このような素晴らしい交流の場に私どもが参加することができたのは、一重にハーバードカンファレンスを主催し参加者を心からもてなしてくれたハーバード生、HCAP 東京大学運営委員会 9 期の活動を陰日向に支えてくださっているアラムナイの方々、活動へご支援・ご協力頂いている全ての団体・個人様のご厚意のおかげです。この場を借りて、9 期一同より深い感謝の意を述べさせていただきますと共に、今後とも引き続き温かいご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、参加者同士の深い交流は、意外にも名物のパステイを片手にボストン市内を歩きながら、あるいは深夜のパーティ会場で音楽に乗りながら語っている様な、ふとした場で起こるものです。その中でどれだけ一瞬を大切にし、自分を積極的に開示し、また真っ直ぐ他者と向き合えるかということが充実した国際交流を左右するのではないのでしょうか。自分はハーバードでの 9 日間を通してこのようなことに気づかされました。

ハーバードで各メンバーが得たこうした学びを、HCAP 東京大学運営委員会の活動の集大成とも言える東京カンファレンス 2015 では最大限に活かしていきたいと思えます。9 期は、最後まで妥協なく、より質の高いカンファレンスの実現を目指して邁進して参ります。

甚だ簡単ではありますが、以上を持ちましてハーバードカンファレンス 2015 の総括に代えさせていただきます。

HCAP 東京大学運営委員会 9 期
代表 堀澄紀